

町長 ジュニア応援団だった3人にとって、10年後の国見町はどんなだったらいと思う。

佐藤(圭) 高齢化が進んで人口が少なくなっていく中で、活力ある町、元気な町



東京歌舞伎座木挽町広場で物産展



東京都羽村市の夏祭りでもモモのおいしさをPR

鈴木 実際にPR販売をしてみても、あまり福島のみもとか国見のモモという偏見を持たずに試食してくれて、「おいしいから買おう」と言ってくれる人たちがたくさんいました。風評被害と言われるけれど、そればかりではないという現実を知ることができたことは勉強になりました。

10年後の自分

町長 10年後、みんなはどうなっているのか、教えてもらえますか。



鈴木 中学校の英語教師になりたいです。中学の時の担任の先生は尊敬できる先生で、勇気がなくて踏み出せなかった私を後押ししてくれました。中学時代の楽しかった思い出のきっかけはほとんどが先生です。私もそんな先生になりたいです。

佐藤(惺) 僕は新幹線の運転士になりたいです。小さい時から鉄道が好きで、保育所の卒園アルバムにも書いてました。

佐藤(圭) 僕はパソコンが好きで、将来は国見町のネットワーク環境を整える仕事をしたいです。情報電子系の大学へ進学し、国見に戻ってきたいです。



しげや のりみち 先生 渋谷 憲道さん

モモ、リンゴ、柿などの果樹を栽培。サラリーマンから転身し実家に入る。「おいしい」を求めて土づくりからこだわり、樹をデザインする。

でいてほしいと思います。

佐藤(惺) 今のままのみんなが幸せな町でいてほしいです。

鈴木 若者が戻ってきたらと思える住みやすい町、人と人とのつながりが強い明るい町でいてほしいです。

町長 東日本大震災と原発事故の記憶は薄れていくけど、自分の中できちんと思い出出すことが大事なのかなと思う。これまでの10年を糧に、これからの10年の間に、ジュニア応援団だった3人には自分が思い描いている大人に、キラキラ収穫隊の3人には、自分が追いつきたい農業経営を実現してほしいと思います。



くみしゅらんでモモの摘花体験

ジュニア応援団だった3人と話しながら、3人の夢がかないますように思いました。10年後にまた会いたいと思いました。そして、大人が子どもたちに残してやれるものは、体験を通してた教育だとも思いました。

国見町は、この10年、行政主導で復旧復興やまちづくりを進めてきたから、他の市町村よりも復旧と復興の進み具合は

学校の勉強も大事だけれど、それ以外の例えば、農業の大切さだったり、国見町の自然の素晴らしさだったり、お父さんやお母さんの一所懸命働く姿だったり、おじいちゃんやおばあちゃんとの底なしの優しさだったり……。これらのすべてを国見の子どもたちに教えることがとても大事なんだな。国見町全体で育んだ子どもたちが、いろいろなところで活躍することこそ、誇りとするべきなのだろうなと思いましたが、



早かったし、充実度も高かった。でも、これからの10年は、さまざまな人が、自由に意見を出し合ったり、逆に相手の意見を聞いて考えたりしながら、みんなでの将来像を描いていくべきだと思います。みなさん、今日はありがとうございました。

阿部 10年後、国見町の農業はがらりと変わっていると思います。私たちの世代になっていっていると思います。そして、若い人たちが農業をしたいと思うように、自分たちが農業の楽しさと技術の向上、おいしさを極めて、国見町を全国に発信し

黒田 中学や高校の頃は、将来、国見町にしようとは思っていません。あの頃は北海道の大学へ進学しました。でも今は農業が天職だと思っています。

渋谷 10年後も今と変わらずに農業ができていたらいいな。天候が悪くてもおいしい果物を作ることができているといいな。私はおいしいものを届けていきたいという自信がある。



あべ かおる 阿部 郁さん

あんぼ柿生産を中心にモモなどの果樹を栽培。大震災を機に実家の農業を手伝う。果樹栽培の実践を父から学んでいる。



さとう かいや 佐藤 惺弥さん

国見小学校6年生、東北中学校1年生の2年間、国見ジュニア応援団で活動(平成28年度、29年度)。現在は福島高校1年生。趣味は鉄道。

る。でも、情報の出し方、伝える努力が足りないかなとも思っています。国見の果物を食べていけば間違いないと思ってもらえる果物づくりをしていきたいです。食べてくれる人と生産者が顔の見える付き合いを続けたい。生産者の仲間を増やして、みんなでPRに出かけるときに自信をもって行けたらいいな。何より、キラキラ収穫隊とジュニア応援団と一緒に力を合わせ



北海道二セコ町でモモをPR



岩手県平泉町で国見の歴史を紹介